九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

日本人と韓国人の口腔保健状態および口腔常在細菌叢の国際比較

松尾，和樹

https://doi.org/10.15017/1441163

出版情報：九州大学，2013，博士（歯学），課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

日本人と韓国人の口腔保健状態および口腔常在細菌叢の国際比較

日本人と韓国人は遺伝的に極めて近縁であり、その社会的背景にも数多くの類似点が認められるにもかかわらず、両国の国家統計を比較すると日本人は韓国人に比べ歯周炎有病率が高い。本研究では口腔マイクロバイオームの構成に着目し、福岡県久山町の住民2272名と京畿道楊平郡（韓国）の住民543名から採取した唾液について16S rRNA 遺伝子を用いてその細菌構成の比較を行った。全被験者の検体をフィンガープリンティング法の一つである Terminal restriction fragment length polymorphism 法を用いて解析し、得られたピークパターンを比較したところその細菌構成が両集団で有意に異なっていることが示唆された。さらに歯周炎の症状が全く認められない者140名に限定し、Barcoded pyrosequencing 法を用いた詳細な解析を行った場合でも各細菌の構成比率には両集団で大きな違いが認められ、日本人の口腔マイクロバイオームでは *Neisseria* の割合が韓国人に比べ少なく、*Prevotella*、*Veillonella* をはじめとする19菌属がより優勢であった。歯周炎患者の唾液では *Prevotella*、*Veillonella* がより高比率を占めていることが以前の研究で報告されており、歯周炎の症状の認められない日本人被験者において韓国人被験者との間に同様の違いが認められることは、口腔常在マイクロバイオームの構成の違いが日本人のより高い歯周炎有病率の素因になっている可能性が示唆される。

本研究の結果は、口腔マイクロバイオームの構成の地域差を明らかにしたことに加え両国の歯周病罹患状況の違いとの関連を示唆しており、歯周病の病因論を再考する上で興味深く、博士（歯学）の学位の授与に値する。

博 士 学 位 論 文 審 査 結 果 の 要 旨 及 び そ の 担 当 者

（ふりがな） 氏　　名	まつお　かずき 松尾　和樹
論文調査委員	主　査　　九州大学　　赤峰　昭文　　教　授 副　査　　九州大学　　西村　英紀　　教　授 副　査　　九州大学　　中村　誠司　　教　授